

【作文】 小学生の部 最優秀賞

友達のやさしさ

坂田小学校五年 山上 暖人

「大丈夫？」この言葉は魔法の言葉だ。心をいやしてくれる。勇気をくれる。思いやりの言葉は、やさしい気持ちにしてくれる。何より笑顔になれる。ぼくは相手が元気になる言葉をこれからどんどん使っていこうと思う。そう心にきめた出来事があった。それはぼくがサッカーの試合で、足をけがして、一か月間、車いすと松葉づえの生活を送ったことだ。初めて松葉づえをついて、登校した時、学校での移動や、いたみとどうやって過ごそうと不安な気持ちでいっぱいだった。他の児童のし線を感じた。遠目から見られている感じがものすごくいやで、思わず下を向いた。すると「暖人大丈夫か？」聞きなれた声に顔を上げたら同じサッカークラブの友達だった。その友達は、上ぐつをはかせてくれた。ぼくのかばんを持ちながら車いすをおして教室まで連れて行ってくれた。毎朝、下校時、ぼくの松葉づえがとれるまで、かかさず手伝ってくれた。本当にうれしかった。毎朝友達が笑顔いっぱい、おはようと言って、車いすを用意して待っていてくれるすがたに安心した。ぼくはありがとうと感じしゃの気持ちを何度も伝えた。友達は、「暖人が良くなってくれたらぼくもううれしいんや、気にするなよ。また明日な。」その言葉に、ぼくは何度もすくわれた。

たくさんの友達から「大丈夫？何かできることがあったら何でも言ってね。」と声をかけてもらった。その言葉に、すうっと気持ちが楽になった。いつでもたよりにできる人が側にいると思えたら、とても心強かった。不自由な生活の中で、手伝ってほしいことがあっても、なかなか自分からのめないこともあった。ささいなことができなくて、むずかしくて時間がかかり、戸まどうことも多かった。街中だと、きつと自分の知らない人ばかりで困っていても助けをよべないと思う。そう考えたら、外出することをためらう人もいるのではないかも考えた。ぼくは決めた。自分の知っている人、知らない人に関係なく、声をかけよう。ぼくにできることはないかと考え、行動したいと思う。知らない人に声をかけるのははずかしいことじゃない。困っているのがわかっていのに、助け合えない方がはづかしいと思う。友達が助けてくれたように、ぼくはまよわず声をかけ、助けると心に決めている。松葉づえの生活は不便だったが今まで知らなかった、体の不自由な人の日常生活の大変さに気づくことができた。せいげんされた生活は、思うように動けず、苦しかったけど、それを和らげてくれるのは友達のやさしさだった。

相手を思いやる心、言葉は人を支え、人を助け、強い力に変わるということを知った。みんなが少しずつやさしい言葉をかける勇気を持って、みんなが生きやすい世の中になると思う。みんなが笑顔でくらせる毎日になるよう、ぼくはぼくのできることから取り組んで助け合って生きていきたい。

【作文】

小学生の部 優秀賞

あいさつで心も笑顔に

山東小学校六年 大橋 由依

あいさつには、たった一言でその日の気分や感情を変えるすごい力があります。だからあいさつは大切なんだと、これまで何度も言われてきました。そのため、あいさつの大切さは知っているつもりでしたが、自分がするとなったら別問題で、そんな簡単な話じゃないとどこか他人事のように思っている自分がいました。

正直、これまでの私は、あまりあいさつができていませんでした。一、二年生の頃はしっかりと覚えていたのに、三年生ぐらいになつてからは、だんだんと恥ずかしくなり、言えなくなっていました。「別に言わなくてもだれも困らないし。」とも、心の中で思っていました。

けれど、五年生の時にあるサイトを見ました。それは、最近の子はあいさつをしない子が増えているから地域であいさつを盛り上げよう！というサイトでした。最近はそんな運動をしてもあまり意味がないだろうと思っていました。

けれど、六年生になってからふと思いついて、勇気を出して地域の人に

「おはようございます。」

と言ってみたら、大きな声が出たのです。自分でもびっくりしたの

を覚えています。そのことをきっかけに私は今も続けてあいさつをしています。今では、なんで恥ずかしかつたのだろうと思うほど、あいさつをすることが好きになりました。

あいさつをするようになり、気付いたことがあります。それは、あいさつの気持ちのよさです。私がいさつをすると、相手の人も笑顔で返してくださるので、とてもうれしい気持ちになり、スッキリします。ですが、残念な気持ちもありました。それは、あいさつをしても無視する人やどこかに行ってしまう人がいるということです。そんな人には、イライラしたり、悲しくなったりします。でも、思い出してみると、その姿はまるで少し前までのあいさつができなかった私みたいで、相手があいさつをしても、私は無視していました。その時、私にあいさつをしてくれた人はイライラして悲しかったのかも知れません。そうやって初めて、私はいさつの重要さに気が、これまでの自分はなんてひどいことをしていたのかと申し訳ない気持ちになりました。

私の周りには、少し前までの私のように、なかなかあいさつができていない人もいます。その人たちにも、あいさつの楽しさやスッキリする気持ちよさなどを感じてほしいと思っています。あいさつしようと呼びかけるだけではなかなかあいさつは広がりません。でも、私がいさつを元気にする姿を見せ続けることで、学校や地域にあいさつの輪を広げていきたいです。

【作文】 小学生の部 入選
「言葉の力」

伊吹小学校五年 草野 由珠

「一度口から出しちまった言葉は、もう元には戻せないんだぞ。言葉は刃物なんだ。使い方を間違えると、やっかいな凶器になる。言葉のすれ違いで一生の友達を失うこともあるんだ。一度すれ違ったら、二度と会えないかもしれない。」

これは、私の大好きなアニメ「名探偵コナン」で出てきた、一番心に残っている言葉です。映画「名探偵コナン沈黙の十五分」の一場面で、スノーモービルで遊んでいた少年探偵団は、元太がスピードを出しすぎて横転してしまい、それが原因で光彦と元太が言い争いをしていたときに、コナンが言った名言です。

私達のクラスでも、たまにけんかがあるけれど、次の休み時間には仲直りができています。それが当たり前だと思っていました。けれど、私は以前に、ひどい言葉のぼう力のせいで、自殺をしてしまった人がいるという悲しいニュースをテレビで見ました。そのニュースを見て、言葉は人の命をうばってしまうおそろしいものだと思います。コナンの言っている言葉の意味がよく分かりました。

私は、今までに友達からいやなことを言われたことが、一度もありません。でも、もし友達にひどいことを言われたら、すごく悲しいし、学校に行きたくなるかもしれません。だから、私も自分の言

葉に責任を持ち、相手がきづつかないかしっかり考えたいです。

しかし、言葉はおそろしい事ばかりではありません。人を幸せにできるのです。おそろしい言葉になるか、幸せな言葉になるかは、考えて話す自分次第です。うっかり言ってしまった言葉や、自分にとっては悪気のない言葉でも、それが原因で一生の友達を失ってしまうかもしれないということを考えたいです。

私は、友達に「ありがとう。」と言ってもらえようと思います。だから、「ありがとう。」と言ってもらえようことをしたいです。それに、私が言ってもらってうれしいことは、きっとみんなもうれしいことです。なので、「ありがとう。」と言ってあげたいです。

特に、今はコロナ禍でマスクをしています。そのため相手の顔の表情が分かりにくいので、より一層相手の気持ちを考えなければいけない時期です。マスクをしているので、私は相手の目をしっかりと見て話しています。目の表情で少しでも気持ち伝わっていきま

す。
言葉は人と人、心と心をつなぐ大切なものです。これからも私だけでなく、周りの友達や家族、地域の人たちにも心がうれしくなり、あたたかくなる言葉であふれるといいなと思います。